

一休さんのきつね話 いのきみう

むかし、ある人が一休さんをたずねてきて、

「なにかおもしろい話を聞かせてもらえませんか」といいました。

一休さんは、

「そうだなあ」と考えてから、こんな話をしました。

「むかし、中国にこんな話があつたそうな。

トラがきつねを追いつめて食べようとした。するときつねがいうには、

『なんと、トラよ。わしを食うてはいかん。天の神さまが、きょうから、わしをけものの大將たいじょうにしたのだ。わしを食うたら神さまにそむくことになって、バチが当たつて、おまえの命がなくなるぞ』

トラは、

『うそをつけ。そんなことは聞いてないぞ』といった。きつねは、

『うそだと思うなら、わしの後あとについてこい。どんなけものも、みな、わしをおそれで逃げにていくから』といった。

トラは、変へんだとは思うたけれども、きつねの後からついていった。そしたら、どんなけものも、みな逃げていった。

ほんとうは、みな、トラを見て逃げたんだが、トラは、みながきつねをおそれで逃げたと思つたんだな。

こんなきつねはどこにでもおるぞ。だまされたらいかん。『用心ようじん、用心ようじん』

原話：『一休諸国物語 卷一』「第五 一休、狐ばなしの事」

再話：村上郁

